

グリーンイベントガイドライン おかやま

*** 脱炭素社会の実現に向けて ***

地球温暖化問題は、その予想される影響の大きさや深刻さから見て、人類の生存基盤に関わる重要な環境問題であり、その原因は人間の諸活動に起因する温室効果ガスの増加と言われています。

今後、このまま温室効果ガスの排出を削減できなければ、さらに気候が変動し、これまでにない自然災害などが発生することが予想されており、わたしたちは社会・経済活動、そして個人の日常生活におけるあらゆる場面において、温室効果ガスの排出を最小化するための配慮を徹底し、着実に実践する必要があります。

このような観点に立ち、県内各地で開催されるイベントにおいても、資源の大切さや地球温暖化防止の意識を高め、環境に配慮した取組を実践していくため、このガイドラインを策定しました。



岡山県

1 はじめに

このマニュアルには、環境に対する影響をできるだけ少なくイベントが実施できるよう、主催者が取り組むべき内容を掲載しています。イベントを開催するときはその取組事項に沿ってできる限りのことを実践しましょう。

2 取組事項

①自然環境への配慮

人と環境・地域にやさしいイベントにします。



②ごみ削減とリサイクル

ごみの削減に努めるとともに、できるだけリサイクルします。



③交通手段の工夫

公共交通機関や自転車等の利用を促します。



④省資源・省エネルギー

資源やエネルギーの使用を減らし、できるだけ再生可能エネルギーで賄います。



⑤参加者への環境意識啓発等

参加者へ環境配慮の取組を積極的にアピールします。

⑥運営体制の整備

取組事項が実行されるよう運営体制（責任体制）を整えます。

3 グリーンイベント登録手続きの流れ

(1) 主催者はチェックシートで取り組む内容を決め、記載したチェックシートを事務局に提出します。（登録には、上記6分野全てに少なくとも1項目以上、取組があることが条件となります。）

(2) 事務局は、ホームページ上にイベントグリーン化宣言されたイベントを掲載します。

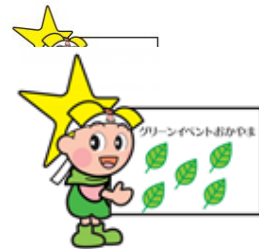
(3) 主催者は取組項目数に応じたグリーンイベントマークをポスター、チラシ等に使用することができます。（別途、事務局に申請が必要です。）

(4) 主催者はイベント実施後、取組項目の実施状況を事務局に報告し、事務局はその取組結果をホームページに掲載します。

グリーン レベル	グリーン 宣 言 度	実施項目数（全53項目）
1	♻️	20%未満（6～10項目）

2	♣♣	20%以上（11～20項目）
3	♣♣♣	40%以上（21～30項目）
4	♣♣♣♣	60%以上（31～40項目）
5	♣♣♣♣♣	80%以上（41項目以上）

□基本項目 24項目 ◇発展項目 29項目



グリーンイベントマーク
(グリーンレベル5の例)

4 個別取組事項

(1) 自然環境への配慮(取組項目数 _____ 項目 / 5項目)

イベントの開催にあたっては、可能な限り自然環境へ配慮した計画をたて、人と環境・地域にやさしいイベントを実施します。

- 会場及び周辺の自然環境にできるかぎり配慮したイベントを計画します。
- 自然や生態系にはできるだけ手を加えないようにします。
- 自然に手を加えた場合は、回復に努めます。
- 会場設営にあたっては、既存施設の活用や再生利用可能な資材・物品や地元で供給可能な食材を使用し、自然環境への影響を最小限にします。
- ◇会場施設の整備にあたっては、地形の著しい改変をできるかぎり避けるなど、自然や生態系、景観等に配慮した工法をとります。

(2) ごみ削減とリサイクル(取組項目数 _____ 項目 / 15項目)

イベントでは大量のごみが発生します。イベントの開催にあたっては、「3R=(リデュース:ごみを減らす、リユース:繰り返し使う、リサイクル:再資源化する)の考え方」に基づき、ごみの削減に努め、やむを得ず発生した場合は可能な限りリサイクルしてごみの排出量を少なくします。

- チラシや資料等の印刷物は作成部数を必要最小限にします。
- イベントの案内はインターネット、電子掲示板等の電子情報を活用します。
- ポスター、チラシ等の配布物は、再生紙・再生品を利用します。
- ごみは、分別回収ボックスを設置し、イベント会場の市町村のルールに沿ってきちんと分別します。
- あまったチラシや資料等は、主催者が持ち帰り、再使用・再生利用します。
- マイバッグ、マイ箸、マイ水筒、マイカップ等の持参を呼びかけます。
- 看板、パネル、会場装飾等の資材や展示物は、既存のものまたは再利用できるものを活用します。
- ◇両面印刷やプロジェクターを活用し配付資料をできるだけ削減します。
- ◇参加者に分別回収への協力を促し、わかりやすい案内表示に努めます。
- ◇参加者や出展者に「ごみの持ち帰り」を求めます。
- ◇出展者等に簡易包装を求めます。
- ◇飲食に使用する容器は、リユース(再利用)食器を利用することを求めます。
- ◇リユース食器を利用できない時は、紙や生分解性プラスチックなど環境に配慮したもの

を使用します。

◇カン、ビン、ペットボトル、牛乳パック類、割箸などは分別してリサイクルに協力します。

◇食べ残しなどの生ゴミは、できるだけ環境に負荷がかからない処理方法を検討します。

(3) 交通手段の工夫(取組項目数 _____ 項目 / 10項目)

イベント会場には大勢の人が様々な交通手段を使って来場します。

とりわけ、自動車の利用は、排ガスによる大気汚染や騒音、交通渋滞の原因になるだけでなく、使用する化石エネルギーの量も多く地球温暖化の原因にもなります。イベントの開催にあたっては、公共交通機関や自転車等の利用を促し環境負荷をできるだけ小さくします。

☐ 徒歩、自転車、公共交通機関での来場を呼びかけます。

☐ 駐車場における、アイドリング・ストップを呼びかけます。

☐ シャトルバス、パークアンドライドの導入、自動車の乗り合わせなど効率的な交通手段を提案します。

◇会場は公共交通機関を利用しやすい開催場所を優先的に選定します。

◇公共交通機関やシャトルバスの運行情報をチラシやポスターに掲載します。

◇公共交通機関での参加者には、何らかの特典を設けます。

◇交通経路の情報提供を実施するとともに、必要に応じて交通整理員を配置します。

◇スタッフの移動にも徒歩、自転車、自動車の乗り合わせを徹底します。

◇環境配慮型駐車場(駐車エリア)を設定します。[エコカー、乗合せ3人以上など]

◇資材の運搬やスタッフの移動の際は、できるだけ電気自動車、ハイブリッド車などの低公害車を活用します。

(4) 省資源・省エネルギー(取組項目数 _____ 項目 / 10項目)

イベントでは、多くの資源やエネルギーを使用します。イベントの開催にあたっては、資源やエネルギーを大切に使用し、使用の削減に努めます。また、可能な限りエネルギーは再生可能エネルギーで賄います。

☐ 資源やエネルギーの使用をできる限り抑えます。

☐ 資材、物品等の購入にあたっては、環境に配慮したものを優先的に購入します。

☐ 冷暖房温度を適切に管理し、必要最小限の使用とします。

☐ 印刷物には再生紙、エコインクなど環境に配慮した素材を使用します。

◇資材、物品等はできるだけ地域で生産されたものを調達するよう努めます。

◇機器の使用や調達に関しては、省エネルギー機器を優先的に扱います。

◇省資源型設備の整備された施設を優先的に選定したり、設備導入の際には、節水型トイレや雨水利用システム等を検討します。

◇記念品やスタッフジャンパー等は環境にやさしい製品とします。

◇照明・音響は過大とにならないよう努めます。

◇会場の照明、動力源等に再生可能エネルギー[太陽光発電、BDF(バイオディーゼル燃料)発電、風力発電、太陽熱]を活用します。

(グリーン電力証書<再生可能エネルギーで発電された電力の環境価値を証書化し、

取引できるようにしたもの>の購入等を含む。)

(5) 参加者への環境意識啓発等(取組項目数 _____ 項目 / 6項目)

イベントには多くの人が参加し、環境保全に対する理解や実践活動を促進するよい機会になります。イベント開催にあたっては、参加者へ環境配慮の取組を積極的にアピールします。

□環境に配慮したイベントであることをポスター、チラシに明記してPRします。

□環境配慮の取組を会場内の掲示等によって参加者に伝え協力を求めます。

□ポイ捨て防止のため、喫煙場所を設定します。

◇資料等に環境保全のメッセージや身近な実践活動を表示します。

◇イベント終了後に、参加者や出展関係者と共同で清掃活動を実施する等環境への意識啓発に努めます。

◇CO2排出量を(簡易)算定し、主催者及び参加者によるカーボンオフセット(後述)に取り組みます。

(6) 運営体制の整備(取組項目数 _____ 項目 / 7項目)

取組事項が効果的に実行されるために、計画、準備の段階から開催、終了後まで運営体制(責任体制)を整えます。

□環境配慮を進めるための体制を組織し、企画段階から環境に配慮します。

□環境配慮を推進する責任者を決めて、進行管理を行います。

□スタッフ各人が環境配慮のイベントであることを自覚し、実践します。

◇実施計画、運営マニュアル等において、環境取組項目を明記します。

◇スタッフや出展者等に取組項目等を事前に説明し、環境取組の徹底を図ります。

◇各種ボランティア団体等との連携・協働を図ります。

◇環境配慮の取組実績を記録し、今後の開催に役立てます。(ごみの発生量、資源・エネルギーの使用量等)

問い合わせ先(事務局)

岡山県環境文化部脱炭素社会推進課

〒700-8570 岡山市北区内山下2丁目4-6

TEL:086-226-7298 FAX:086-231-8094

メールアドレス: datsutanso@pref.okayama.lg.jp

令和7年3月改訂版